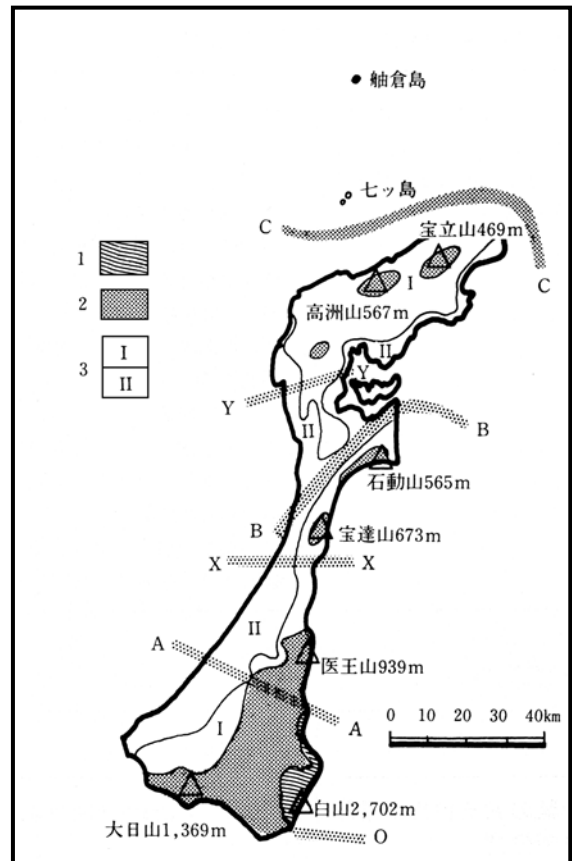


## 付図1 石川県の植物地理学区分と植生地理区分(概念図)

本文の記述で用いた主な地域区分は、植物地理学的区分でその内容は下記の通りである。この区分は、石川県内の維管束植物（シダ植物・種子植物）の分布に関する長期にわたる調査・研究にもとづいて作成されたもので、1980年代以降も、その後の詳細な調査・研究によって支持されている。現在のところ、最も妥当性があると考えられている区分である。ア～エで示した植物小区系の個々の名称は、下級の地域区分である区の名義とともに県下の植物学的文献で、安定して用いられている。

- ア 舳倉島・七ツ島植物小区系：C—C以北
- イ 奥能登植物小区系：C—C～B—B
  - 外浦区：能登半島脊梁部より外浦側（Y—Y以北）
  - 内浦区：能登半島脊梁部より内浦側（Y—Y以北）
  - 中能登区：B—B以北で、Y—Y以南
- ウ 口能登・加賀中央部植物小区系：B—B～A—A
  - 口能登区：B—B以南で、X—X以北
  - 加賀中央区：X—X以南で、A—A以北
- エ 南加賀植物小区系：A—A～O
  - 白山高地区：南加賀植物小区系のうち、亜高山帯・高山帯（コケモモトウヒクラス域）
  - 南加賀区：南加賀植物小区系のその他の地域



本文の記述には、前記の植物地理学的区分に併せて、植生地理区分が用いられている場合がある。石川県の植生地理区分は、植物地理学的区分と植生域の組み合わせとして存在する。（例：奥能登植物小区系中能登区のヒメアオキ—ウラジロガシ群団域）

以下、関係する要素である区分線、区分、植生域について簡潔に説明する。

石川県の植生地理区分は植物地理学区分と植生域の組合せとして存在する。

**植物地理学的区分線** このあたりにフロラの滝があると推定される。

A—A：手取川（鶴来）と大門山を結ぶ線、B—B：邑知瀉低地帯を通る線、以下、フロラの弱い滝があると推定される線、X—X：倶利伽羅峠を通る線、Y—Y：富来川と熊木川を通る線

**植物地理学的区分** 区分線に挟まれた領域でそれぞれ特徴をもつ。

C—C以北：舳倉島・七ツ島植物小区系、C—C～B—B：奥能登植物小区系、B—B～A—A：口能登・加賀中央部植物小区系、A—A～O：南加賀植物小区系

**植生域**

1：コケモモトウヒクラス域、2：ブナクラス域、3：ヤブツバキクラス域  
うち、ヤブツバキクラス域はつぎのように区分される。

I：ヒメアオキ—ウラジロガシ群団域、II：スダジイ（典型）群団域（出典：古池 1990）